

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科昼間部)																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			キリスト教概論	キリスト教及び聖書の基本知識を習得する。これにより、学園の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」を深く理解する。	1通	60	4	○			○			○			
○			心理学	臨床現場で実際に活かすことのできる心理学の基本的な知識及び方法論を習得することを目指す。心理学の各領域について、心理テスト及び簡単な心理実験等を体験しながら、理解を深める。	1後	30	2	○			○				○		
○			教育学	教育及び学習について幅広い視野を持つとともに、人間の成長及び発達における教育の意義を捉えなおす。対象者に対する教育的役割を果たすために、教育の基礎となる知識及び技術を養うとともに、専門職として生涯にわたって継続学習する意欲や能力の基礎を培う。	1前	30	2	○			○				○		
○			社会福祉学	社会福祉の基礎知識の習得をねらいとし、社会福祉制度の成立過程及び近年の社会状況の変化を理解し、それらがどのように社会福祉の法律、制度及び利用者の捉え方に影響を及ぼしているのかという点を理解する。	1後	30	2	○			○				○		
○			情報処理	Excel特に数式及びデータベースとしての使い方を習得する。リハビリ効果を客観的に検証するために仮説検定をすることが義務付けられるので、統計的手法について仮説検定手順の取得を中心に理解を深める。	1通	60	4		○		○					○	
○			生命科学	近年飛躍的に進歩した分子生物学の基礎を学習し、生命とは何かを理解する。生物を形作る物質、細胞、染色体、遺伝子及び代謝等について学び、人間の生物としての普遍性及び個体としての特性を理解する。また、生命の尊厳を理解し、医療倫理の基盤を身に付ける。	1前	30	2	○			○					○	
○			医学英語	医療現場で働く作業療法士にとって、カルテ内容を理解しチーム医療における他医療職とのコミュニケーション円滑化を図るため、医学英語は不可欠であり、英文の読解力及び作文力を復習するとともに、医療人として必要な英語医学能力を身に付ける。	1後	30	2	○			○				○		
○			体育理論	スポーツスキル及び運動制御を中心に学習するが、高度な運動スキルの背後にある人の感覚運動系の仕組み及びその評価方法の理解を通じて、作業療法士として運動実施者に役立つ指導方法及びスキル評価の方法を探求するための発想法及び手がかりを身に付ける。	1前	15	1	○			○					○	
○			体育実技	ジャグリング、バランスボール及び長縄を用いた運動を通して、「できない」が「できる」ようになっていく過程を経験し、リハビリテーションを実施する者としての重要な資質を形成する。	1前	30	1			○	○					○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			解剖学	医療従事者にとって必要不可欠な人体の構造に関して、理解することを目的とする。人体の基本構造の学習に加え、リハビリに必要な臨床解剖についても学習する。リハビリに直接的に関係する肉眼解剖学を中心に、より合理的に理解するための比較解剖学や発生学、更には臨床解剖学についても理解を深める。	1 前	30	2	○			○			○			
○			解剖学実習	解剖学講義の授業で習得した基本知識を応用し、実際に骨格模型を主体にスライド等を活用して、人体構造の理解を深める。特に、リハビリに重要な骨、筋及び神経等について、骨格及び筋の標本を中心に学習する。	1 後	60	2			○	○				○		
○			生理学	生命現象の仕組み及びその意義を理解し、作業療法に必要な生体の機能の基礎的な事項について学習する。生体は、その基本単位である細胞が集まって組織及び器官を形成し、全体として調和のとれた状態を保っているため、これらの要素の機能及び相互の関連についても理解を深める。	1 前	30	2	○			○				○		
○			生理学実習	生理学講義の授業で習得した基本知識を応用し、人体の生理機能の基礎について実習を通して体験することにより、理解を深める。	1 後	60	2			○	○					○	
○			基礎運動学	身体運動は、人間の行動を支える基本的な活動である。その障害は日常生活の円滑な遂行を妨げるリハビリの主要な対象のひとつとなるため、基礎運動学では人体の運動器の構造、機能及び身体運動の基本的機構について学習し、病態による障害について考える知識を習得する。	1 前	30	2	○			○					○	
○			運動学実習	リハビリにおける身体の姿勢及び動作について、どのように表現するかが重要なため、運動学的及び運動力学的分析の方法を各種運動解析装置を用いて体験することにより、リハビリにおける障害の病態を考える具体的な知識及び方法を理解する。	1 後	30	1			○	○					○	
○			人間発達学	人間発達に関する理論を総合的に概観し、発達段階における正常発達の姿を発達課題その臨床像の視点から整理し、生涯を通じた発達観の習得を目指す。生命の誕生、胎児期から老年期及び死を迎えるまでの一連の流れの中において理解し、生涯発達観について理解を深める。	1 前	30	2	○			○					○	
○			病理学概論	病理学とは病気の原因を明らかにし、その本態を解明することである。病理学は複合的な内容のため、幅広い分野の知識が必要となる。よって、医療人として人体の正常と異常を正しく理解し、臨床現場において患者に対し正しい認識をもてるよう学習する。	1 後	30	2	○			○					○	
○			一般臨床医学	臨床医学への最初のアプローチとして、医学の歴史及び医学の倫理を学習し、医療人としての心構えを学ぶ。また、現代の医学と医療の仕組みと問題点を理解し、作業療法士としてまたチーム医療を担う一員として必要な臨床医学の基礎知識を習得する。	2 前	30	2	○			○				○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			内科学	内科学は、最も包括的な臨床医学である。作業療法士が臨床現場で遭遇する頻度が高い疾患、あるいは医療人として最低限必要な内科的知識を習得する。内容は、高齢者及び生活習慣病の視点を重要視する。	2後	30	2	○			○	○			
○			整形外科	整形外科の基礎知識を系統的に理解し、深い判断力と思考力を習得する。整形外科疾患をできる範囲で紹介するとともに、日常扱う頻度の多い疾患を重点的に学習する。また、症状をよく聞き詳細に所見をとり、必要な検査を加えて診断に達する過程についても理解する。	2前	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	大脳皮質運動領野から骨格筋に至るまでの運動経路、神経症候から主な病変部位及び神経疾患の基本的な病態等を述べるようにする。また、作業療法士が対象とすることの多い神経内科疾患について、その基本的な病態を深く理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			精神医学	現在精神科医療のニーズは、ますます高まってきた。対象とする疾患は、うつ病等の感情障害、統合失調症、てんかん、パーソナリティ障害及び睡眠障害等多岐にわたっている。精神医学では、総論及び各論に加え、関連法律、歴史及び精神疾患基礎等を学習する。	2前	30	2	○			○			○	
○			小児科学	小児に対する作業療法の現場で遭遇する諸問題、小児の成長・発達・生理・疾病に関連する課題及び様々な原因により発現する発達遅滞の諸問題について深く理解する。また、小児特有の先天性・遺伝性疾患に関する遺伝の法則等についても学習する。	2後	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	今日の作業療法士が、保健、福祉、教育、職業及び地域生活等の現状を認識し、対象者への係わり方の視点及び他職種や一般市民との連携について学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			公衆衛生学	臨床医学の主な対象が患者であるのに対し、公衆衛生の対象は普通に生活している人々である。この人々の生活環境をより良いものとし、一層健康な状態とするにはどうすれば良いのかを、個人的または社会的方策について深く理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			作業療法概論	作業療法の起源から定義を学び、各分野の作業療法の概要を学習する。また、作業療法の全体像を知るために、基礎的な作業療法の知識を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			基礎作業学	革細工及び籐細工を通じて、作業活動の基本的な知識及び技術を習得する。また、これらの作業活動についての作業分析方法を深く理解する。	1後	30	2		○		○			○	
○			基礎作業学実習 I	木工、陶工及び金工の作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	1後	30	1			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎作業学実習Ⅱ	マクラメ及び機織りの作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	1前	30	1			○	○		○		
○			基礎作業学実習Ⅲ	絵画及び音楽の作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	1後	30	1			○	○		○		
○			作業療法評価法Ⅰ	身体障害の評価に用いられる関節可動域測定法及び徒手筋力検査法を学習する。各検査法の成立、目的、適応、測定法の実施手順及び実施上の留意点について、技術を体得するとともに深く理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			作業療法評価法Ⅱ	精神障害に必要な評価法の知識及び技術を習得する。また、なぜ評価が必要なのかを考える力を身に付けることが目的である。	2後	30	2	○			○		○		
○			作業療法評価法Ⅲ	発達障害に必要な評価法の知識及び技術を習得する。また、発達障害作業療法の理念、目的、運動、認知及び社会性の発達理論を理解し、作業療法にとっての重要性を認識する。	2前	30	2	○			○		○		
○			作業治療学演習	身体障害で使用する評価法について、評価技法を深く理解する。具体的には、片麻痺回復検査及び高次脳障害に対するスクリーニングテストを中心に、評価技法を習得する。	2前	30	2		○		○		○		
○			作業治療学Ⅰ	身体障害の作業療法について、評価法の基礎知識及び障害と関連する各評価技法、記録法及び解釈等を深く理解する。	2前	30	2	○			○		○		
○			作業治療学Ⅱ	精神障害の作業療法を実施するうえで、基礎となる理論及び技法について学習する。この理論及び技法とは、作業療法のみではなく他職種も含む。これらを組み合わせ、対象者に有効な作業療法を計画できることを目的とする。	2前	30	2	○			○		○		
○			作業治療学Ⅲ	発達障害及び運動障害に関する基礎知識、評価法及び治療方法について学習する。また、脳性麻痺及び運動障害の疾患児に対する作業療法の評価法について深く理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			作業治療学Ⅳ	高齢者の心身の特徴及び高齢者によく見られる疾患や障害を理解し、老年期障害に対する評価法及び治療計画の立案方法について学習する。	2後	30	2	○			○		○		
○			作業治療学Ⅴ	高次脳機能障害に対する作業療法の概要、特徴の理解、評価方法及び介入の原則を学習する。また、高次脳機能障害の作業療法を実施するにあたり、他部門との係わり方についても理解する。	3前	30	2	○			○		○		
○			作業治療学実習Ⅰ	脳血管障害、脊髄損傷及び関節リウマチ等の身体障害作業療法について学習する。また、リハビリテーション医学としての位置付けで各疾患を理解し、作業療法の評価と治療の実際を理解する。	2後	30	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			作業治療学実習Ⅱ	精神障害の各疾患及び障害特性自体を学ぶのではなく、それぞれに対し作業療法を行ううえで考慮する事項等を事例紹介もしながら学習する。また、事例紹介の仕方及びまとめ方も理解する。	2後	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅲ	精神遅滞、広汎性発達障害及び軽度発達障害等の発達障害並びに知的障害分野に関する基礎知識、評価方法及び治療方法を理解するとともに、治療への道すじを学習する。	2後	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅳ	加齢による老年期特有の変化(身体的・精神的)を理解するとともに、高齢社会について学習する。また、疾患別に応じて評価方法及び治療方法を理解する。	2後	30	1			○	○		○		
○			作業治療学実習Ⅴ	高次脳機能障害の特徴を理解し、作業療法の概要、評価方法及び介入の原則について学習する。また、実習を通じて高次脳機能障害の治療について、具体性を高める。	3前	30	1			○	○		○		
○			作業療法技術Ⅰ	義肢装具学の基礎を理解し、国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。また、義手と上肢装具に重点をおいて学習し、作業療法士として臨床現場で必要な技能についても深く理解する。	2前	60	2			○	○			○	
○			作業療法技術Ⅱ	疾患別による患者の日常生活動作の基本動作について分析を行い、評価方法、具体的な訓練、援助及び改善方法等について学習する。	2通	60	2			○	○		○		
○			地域作業療法学	医療現場と違い地域のリハビリで求められていることについて学習する。また、課題や問題点も取り上げ、現状の社会制度や資源を活用しながら、症例を通して作業療法の係わりについて理解する。	3前	30	2		○		○		○		
○			地域作業療法技術論Ⅰ	スイッチ及びスプリント等のリハビリテーション関連機器について、作成方法及び実践方法を理解する。また、各疾患及び各障害の理解を深め、作業療法の実践に結びつける。	3前	30	2	○			○		○		
○			地域作業療法技術論Ⅱ	人間の職業的発達、就業の意義、職務分析、職業前評価及び障害者の就業状況について学習する。また、国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校及び東京コロニーの見学を通じて、職業関連活動について深く理解する。	3前	30	2	○			○		○		
○			臨床見学	1年次1月下旬に5日間45時間以上の臨床見学を行う。施設全体及びリハビリテーション室の見学を行うとともに、リハビリテーション室の管理運営及び治療プログラムについて学習する。リハビリテーションスタッフミーティング及びケースカンファレンスにも参加し、作業療法士としての仕事内容を理解する。また、臨床見学期間を通して、毎日デイリーノートを作成する。	1後	45	1			○	○		○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床実習Ⅰ	2年次2月中旬から3月上旬に15日間135時間以上の臨床実習を行う。対象患者の疾患等の情報収集、対象患者の治療計画立案の知識及び技術並びに対象患者の治療計画立案方法について学習する。また、臨床実習を通して、毎日デイリーノートを作成するとともに、対象患者の治療計画立案の発表も行う。	2後	135	3			○	○	○		○	
○			臨床実習Ⅱ	3年次に80日間720時間以上の臨床実習を、6月下旬から8月中旬で40日間360時間以上及び9月上旬から10月下旬で40日間360時間以上の2施設に分けて行う。対象患者の疾患等の情報収集、対象患者の治療計画立案方法、対象患者に治療計画立案の実施及び治療記録の作成について学習する。また、臨床実習を通して、毎日デイリーノートを作成し、症例経過の報告も作成するとともに、症例経過報告の発表も行う。	3通	720	16			○	○	○		○	
○			作業療法演習Ⅰ	新聞を利用し、読み、書き写し及びディスカッションを行い、文章を書く力及び読解力向上を図る。また、作業療法関連の専門書を理解するとともに、国家試験の分析に役立つノート作成の方法についても学習する。	1通	60	4			○	○		○		
○			作業療法演習Ⅱ	自分の個性を知り、場面や相手に合わせたコミュニケーションが取れる方法、解剖学、生理学及び基礎運動学と他授業科目を関連付けて、確実に身に付ける勉強の仕方を理解する。また、障害児施設及び障害者施設での体験実習を通して、作業療法の技法を学習する。	2通	60	4			○	○		○		
○			作業療法演習Ⅲ	臨床実習に向けて、ケースノート及びケースレポートの作成方法を学習する。また、障害者施設での体験実習を通して、リハビリ治療における作業療法の技法について理解を深める。	3通	30	2			○	○		○		
○			作業療法特論Ⅰ	これまでに学習した授業科目の知識を深める。また、国家試験に向けての勉強の仕方を学ぶ。具体的には、グループ学習を通して、国家試験の出題範囲、内容及び傾向を過去問題を中心に分析していくため、その勉強方法について理解し実践する。	3前	30	2			○	○		○		
○			作業療法特論Ⅱ	作業療法特論Ⅰで実践してきたグループ学習を継続していく。模擬試験を通して、把握状況を分析し特に苦手部分の克服について、学習方法を理解する。また、総合的に内容を把握する学習方法についても、理解を深め実践する。	3後	30	2			○	○		○		
合計					57科目	2745時間(125単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件)3年以上在学し、学則第16条により課程修了の認定を受けた者。		1学年の学期区分	2期
(履修方法)3年以上在学し、理学療法士及び作業療法士法の規定により、学則別表1の授業科目を履修する。		1学期の授業期間	17週